

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム風の生活館
訪問調査日	平成20年7月4日
評価確定日	平成20年7月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム風の生活館
所在地	横浜市泉区和泉町5932-3 (電話) 045-800-5555

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年7月4日
評価確定日	平成20年7月31日

## 【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造(ツーバイフォー)造り
	2階建ての, 2階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	45,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1100 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87歳	最低	82歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜新緑病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所が目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。ロケーションはいつでも野駅からバスで3つ目、かまくら道からちょっと入った位置にあり、駅から近く、ご家族が訪問しやすい地理にある。施設の1Fはデイサービス、2Fが1ユニットのグループホームとなっており、近くの弥生台には居宅介護支援、訪問看護ステーションがある。平成13年から既に7年を経過して、デイサービスとしてもグループホームとしても確立・定着しており安心しておまかせ出来る安定感と地域との一体感がある。今年度から医療連携体制の認可を受けた。近くのクリニックと訪問看護ステーションの協力体制が非常に上手く回っており、訪問看護は毎月の定期訪問の他、医学面での相談、処理の対応など気軽に電話相談に応じてくれるのと、電話で埒が明かない時にはフットワーク軽く来て診てくれるのでご家族はもとより職員も安心できる状況となり好評で、有効活用が図れている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題として2年間連続で職員の研修に関し、特に新人スタッフの受け入れ研修にに取り組んだ。新人スタッフに利用者としての体験をしてもらい、体験を通じて利用者の思いや心情を理解してもらう研修で、3つのステップに分け、1週目は新規利用者として、2週目は他の利用者仲間となり一緒に活動、3週目は教育担当と一緒に初めて職員として活動する。この体験を通じて利用者の気持ちを察し、自立してケア出来るが狙いである。新人スタッフのみならず教育担当のレベルアップが著しく効果は大きい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>年1回の自己評価、外部評価を事務所の理念の再確認、グループホームの長所及び改善すべき点の認識の機会とし日常活動に生かしている。秀峰会のグループホーム事業部では各グループホーム合同で評価の項目別検討を行っており、特に日常活動に密着した項目の点検・反省・改善に生かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度、泉区では運営推進会議を区が主催してブロック別に合同開催してきた。その方式については種々な意見があったものの運営推進会議としての定着、グループホーム毎のバラツキがなく平均的に導入出来た点、また他地区の地域の自治会との問題が一括区主導で推進出来た点などで効果があった。平成20年度は年4回の開催のうち1回だけブロック別合同として開催することとなった。メンバーは町内会長、ご家族、泉区職員、地域包括支援センター職員にホーム関係者で、新運営推進会議として6月25日に第1回目を実施した。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族とは開所以来7年を経過して、親密な関係が構築出来ている。コミュニケーションは来訪時、毎月の手紙、個別の電話などで充分取れている。旅行や遠出、各種イベントに際しては参加、協力をして頂いている。また帰宅願望の強い人の場合には夕方、決まった時間に電話してくれるよう話し、協力してもらっているご家族もある。運営推進会議を通じて代表の家族同士が友人となり仲良くなったケースもある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開所以来7年の実績は大きく、近隣との関係は年とともに深まっている。デイサービスとグループホーム共催の秋祭りには地域の方をお招きして盛大に実施する他、グループホーム独自で駐車場で近所の子供たちと一緒に花火大会なども恒例化している。この地域の地域包括支援センターは活発でイベント等で協力関係が出来ている。自治会の活動やイベントへの参加、小学校行事への参加など地域に密着出来ている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体は秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。日常生活の中で、入居者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、生き生きと過ごせる雰囲気作りを基本とし、地域の中でその理念を実践している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例のパート会議だけでなく、日々のケア実践の中で確認しあっている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、開所当時から夏祭り、盆踊り、小学校のお祭りなど地域のイベントに参加している。運営推進会議を機に、施設主催の秋祭りのチラシを配布していただくなど、良好な関係を築いている。		清掃など催事以外の地域活動にも参加し、地元の方々と交流していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年一回の自己評価、外部評価を機に、事業所の理念を再確認している。ホームの長所、改善すべき点を認識し活動に活かしている。秀峰会のグループホーム事業部では各グループホーム合同で評価の項目別検討を行っており、特に日常活動に密着した項目の点検・反省・改善に生かしている。		日常活動に密着した項目を点検し、活かしていきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年8月から開催を開始している。平成20年度からは年4回の開催のうち1回だけブロック別合同とし、あとはグループホーム独自で開催することとなった。ホームの活動状況の報告をし、地域の情報を得る良い機会になっている。回を重ねる毎に質問や意見を出していただけるようになってきている。		さらにご意見や助言をいただけるよう、グループホームのことを地域の方々に知っていただくような会議にしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市泉区とは「泉区グループホーム連絡会」を通じて交流している。また、区役所で行われている泉ケアマネフロンテ、地域包括支援センター主催のケアマネジャー連絡会に参加し、行政からの情報を得ている。地域包括支援センターと行き来する機会が多い。		防災や感染症対策の研修の機会を設けるなど、保健所との連携も検討していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開所当初から、毎月お手紙を発送し、管理者によるお知らせ、担当職員によるご利用者に関する報告している。また、預かり金の出納帳を同封している。ご利用者の日常的变化については、ご面会時やお電話にてご報告している。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。ご面会時に積極的にご意見に耳を傾けている。いただいたご意見は、サービスの向上に役立てている。意見、不満、苦情を言って頂きやすい雰囲気、機会を作ることに努めたい。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意見によく耳を傾け、研修参加の機会を設けるなどのサポートにより、離職を抑える努力をしている。代わる場合は、出来る限りご利用者へのダメージを防ぐよう徐々になじみの関係を作れるよう配慮している。		今後も離職を最小限に抑える努力をする。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも各種研修の機会がある。また、外部の研修を受ける機会を設けている。職員の研修に関し、特に新人スタッフの受け入れ研修にに取り組んだ。新人スタッフに利用者としての体験してもらい、体験を通じて利用者の想いや心情を理解してもらう研修で、新人スタッフのみならず教育担当のレベルアップが著しく効果は大きい。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川県グループホーム協議会に加入。法人内外に拘らず、管理者や職員が地域の同業者とのネットワーク作りや勉強会のための支援を行なっている。		今後もサービスの質の向上のため、法人内外に拘らず広く交流する機会を持つことを支援したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに、ご本人、ご家族の見学の機会、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けたり、ご家族との連絡を頻回に行い、相談に応じている。1階のデイサービスで風の生活館になじんでいるご利用者がグループホームにご入居されることもあった。ご見学、体験の機会を多く設定し、徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう配慮していきたい。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に食事を楽しみ、家事活動に取り組み、趣味を楽しみ、共に生活するパートナーとして、喜怒哀楽を共にしている。また人生の先輩として、体験談や教訓を聴かせていただいたり、お力をお借りしながら、支えあう関係を築いている。	○	これをケアの基本姿勢とし、新入職員も含め、全スタッフの共通認識となるよう浸透させていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉に耳を傾け、行動から心の内の願いや思いを汲み取るよう努めている。スタッフ間で情報を共有することによりより詳細なアセスメントを行なっていく。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意向を伺い、職員が汲み取ったご本人のニーズを日常的に話し合い、それらを基に介護計画を作成している。ケースカンファレンスの頻度を上げていきたい。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化については話し合いの上、職員間の連絡ノートにて情報共有している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医、訪問看護による医療サポートが充実しており、医療連携体制加算の算定が認められている。また、併設のデイサービスとの活発な交流により、ご利用者の生活支援の幅を広げている。		近くのクリニックと訪問看護ステーションの協力体制が非常に上手く回っており、訪問看護は毎月の定期訪問の他、医学面での相談、処理の対応など気軽に電話相談に応じてくれるのと、電話で埒が明かない時にはフットワーク軽く来て診てくれるのでご家族はもとより職員も安心できる状況となり好評で、有効活用が図れている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の医療機関受診を基本とするが、ご同意いただける場合、月2回の訪問診療をかかりつけとして受診していただいている。現状、全ご利用者が受診されており、突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により関係医療機関での受診も可能になっている。訪問歯科診療も導入している。		かかりつけ医との連携を更に強化していきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際、ご家族と重度化や終末期、緊急時の対応についての話し合いをし、方針を共有している。折に触れてご本人の意向を聞き取るよう努めたい。ご家族とは繰り返し話し合うように努めたい。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の尊厳を損なわないような言葉かけや対応をするよう配慮している。言葉遣いのあり方について、職員間で話し合う機会を設けている。職員間でご利用者の情報を申し送る際、イニシャルでお呼びして、個人を特定出来ないように配慮している。		特に、言葉かけの配慮は常に意識出来るよう、繰り返しこのことを振り返る機会を設けたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日、その時のご利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図ったり、ご利用者の訴えにじっくり耳を傾けるなど、「利用者主体のケア」を職員のチームワークにより臨機応変に行なっている。		「利用者主体のケア」の推進のため、各職員の研修に力を注いでいく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に同じ物を同じ食卓で味わい、一緒に食事の準備、片づけを行うことは、開所当初から一貫して徹底しており、お一人お一人の力を発揮し、主体的に生活していると実感できるよう支援している。食べ物の好み、盛り付けの好み(例えば、丼物は苦手であるなど)、食べやすい形状などを把握し、実践してい		食事にご利用者の好みを重視した献立の工夫をしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人お一人が好むタイミングや、希望、心身の状況に合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。今後も入浴の時間帯、長さ、回数などお一人お一人に合わせて支援していく。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般に関して、その日その時にお一人お一人のできる力、わかる力を、意欲を最大限に活かした役割活動を支援している。犬が好きな方、花が好きな方、身体を動かすことが好きな方、ショッピングが好きな方など、ホームの内外に拘わらず、個人の生活歴、好みに合わせて楽しみ事を設けたり、買い物、喫茶などの外出は日常的に行っている。		お一人お一人の意欲と力を発揮できる機会を大切にしてい、生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、衣類の買い物、お菓子、パンやワインの買い物、喫茶、美容院、散歩などの要望が出ることもあり、希望に沿って支援している。お一人お一人のその日その時の希望を優先して取り入れ、外出によってリフレッシュしたり、充実感が得られるような支援を今後も行っていく。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	お一人お一人の自由な生活を支えるため、全ての職員が「鍵をかけないケア」の大切さを認識し、取り組んでいる。		今後も鍵をかけないケアを継続していく。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、大家さんの協力を得られるよう働きかけている。	○	ご利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう、確認を徹底していく。大家さんとの関係を良好に保ち、働きかけを継続するとともに、運営推進会議等、地域の方との話し合いの場を活用し、協力を得られるよう広く働きかけていく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を残し、把握した傾向に応じた工夫をしている。お一人お一人の食べ方、好み、習慣を大切にしている。水分摂取量の少ない方には、好きなものをその方の摂りやすい方法で少しずつでも飲んでいただけるよう配慮している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所には季節の花を飾り、居心地よく過ごせるよう配慮している。音の大きさに配慮したり、強い光が差し込む窓にロールカーテンを付けるなど、不快感がないように工夫している。		ご利用者だけでなく、面会にいらした家族等や外部のお客様も居心地よく過ごせる空間づくりに努めていく。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室に装備しているソファベッドに布団を敷く、床にじゅうたんを敷き、その上に布団を敷いて寝るスタイルなど、ご本人の習慣により自由。テレビや愛着のある家具を持ち込まれたり、大切な写真や好みの絵画などを飾るなど、ご本人、ご家族と共にコーディネートしている。		生活に必要なものだけでなく、好みのものをさらに取り入れる工夫をし、その方らしい居室作りを考えていきたい。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム風の生活館
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町5932-3
記入者名 (管理者)	山近あゆみ
記入日	平成 20年 6月 30日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常生活の中で、入居者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、生き生きと過ごせる雰囲気作りを基本とし、地域の中でその理念を実践している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例のパート会議だけでなく、日々のケア実践の中で確認しあっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議の機会を活用し、地域の方やご家族に事業所の理念をお伝えしている。また、毎月一回、ご家族へのお手紙の中の管理者、担当職員からのメッセージを発信している。	○	運営推進会議により新たに出来たつながりを大切にして、地域の方に事業所の理念を伝えていく場を設けていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を届けたり、犬の散歩など、日常の何気ない場面で声をかけ合うお付き合いをしている。敷地内に近隣の方々をお招きし、花火大会を行ったのを機に、子供たちが放課後立ち寄ってくれるようになった。		日常的に立ち寄っていただけるようなアプローチやホーム内の雰囲気作りをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、開所当時から夏祭り、盆踊り、小学校のお祭りなど地域のイベントに参加している。運営推進会議を機に、施設主催の秋祭りのチラシを配布していただくなど、良好な関係を築いている。		清掃など催事以外の地域活動にも参加し、地元の方々と交流していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	○事業所の力を活かした地域貢献			

6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所として、また職員、ご利用者の力を発揮して、地域の皆様の暮らしに役立てることがないか検討中。		回覧板や運営推進会議の機会を活用して検討し、取り組んでいきたい。
---	---	--	--	----------------------------------

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年一回の自己評価、外部評価を機に、事業所の理念を再確認している。ホームの長所、改善すべき点を認識し活動に活かしている。		日常活動に密着した項目を点検し、活かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年8月から開催している。ホームの活動状況の報告をし、地域の情報を得る良い機会になっている。回を重ねる毎に質問や意見を出していただけるようになってきている。		さらにご意見や助言をいただけるよう、グループホームのことを地域の方々に知っていただくような会議にしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市泉区とは「泉区グループホーム連絡会」を通じて交流している。また、区役所で行われている泉ケアマネフォンテ、地域包括支援センター主催のケアマネジャー連絡会に参加し、行政からの情報を得ている。地域包括支援センターと行き来する機会が多い。		防災や感染症対策の研修の機会を設けるなど、保健所との連携も検討していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターのケアマネジャー連絡会で情報を得ている。		必要な方への支援がスムーズに行えるよう、地域包括支援センターの担当者との連携を密にしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の活動の中で虐待防止の意識付け、徹底に努めている。		高齢者虐待の定義や法令、通知についても職員間で学ぶ機会を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

### 4. 理念を実践するための体制

○契約に関する説明と納得			
--------------	--	--	--

12	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心がけ、話し合いを十分に行い、ご理解をいただいている。		今後ご理解いただけるよう、努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。いただいたご意見は、サービスの向上に役立っている。		意見、不満、苦情を言って頂きやすい雰囲気、機会を作ることに努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開所当初から、毎月お手紙を発送し、管理者によるお知らせ、担当職員によるご利用者に関する報告している。また、預かり金の出納帳を同封している。ご利用者の日常的な変化については、ご面会時やお電話にてご報告している。		ご理解を得られるよう、今後ご報告を密に行なっていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。ご面会時に積極的にご意見に耳を傾けている。いただいたご意見は、サービスの向上に役立っている。		意見、不満、苦情を言って頂きやすい雰囲気、機会を作ることに努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案が出されており、常に反映させている。これにより積極的な業務改善が展開されている。		今後も職員の意見を積極的に取り入れていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者やご家族の状況や要望に合わせて柔軟な対応が求められることを話し合う機会がある。		ご利用者の緊急時やご家族のご事情などによって随時話し合い、調整できる体制づくりに努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意見によく耳を傾け、研修参加の機会を設けるなどのサポートにより、離職を抑える努力をしている。代わる場合は、出来る限りご利用者へのダメージを防ぐよう徐々になじみの関係を作れるよう配慮している。		今後も離職を最小限に抑える努力をする。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも各種研修の機会がある。また、外部の研修を受ける機会を設けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川県グループホーム協議会に加入。法人内外に拘らず、管理者や職員が地域の同業者とのネットワーク作りや勉強会のための支援を行っている。		今後もサービスの質の向上のため、法人内外に拘らず広く交流する機会を持つことを支援したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の心のケアのため、法人として心理カウンセラーと契約を結び、電話相談窓口を設けている。事業所の現状を常に把握し、必要に応じ、面談等を行いサポートしている。	○	今後も重点的に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が毎日、日報を送信することにより、職員の努力、実績を報告しており、それに対するコメントにより、ホーム全体のモチベーションアップにつながっている。		今後も職員個々の状況を把握し、意欲を持って勤務できる環境を目指す。

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご見学、訪問での面談により、ご本人自ら発信する訴えに耳を傾け、不安や願いに寄り添い、受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回相談から、利用に至るまで、疑問点、不安なことがあったらいつでも承る旨を何度もお伝えし、その都度対応している。		今後も、利用以前から家族のための相談の機会を大切にしたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、ご本人とご家族のニーズを見極め、場合によっては在宅の担当ケアマネージャーにつなげるなど、必要な対応に努めている。		「その時」のニーズの見極めるスキル、ケアマネジャーと連携できるスキルが向上するよう努めたい。社会資源情報を蓄積していきたい。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに、ご本人、ご家族の見学の機会、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けたり、ご家族との連絡を頻回に行い、相談に応じている。1階のデイサービスで風の生活館になじんでいるご利用者がグループホームにご入居されることもあった。		ご見学、体験の機会を多く設定し、徐々にホームの雰囲気馴染めるよう配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に食事を楽しみ、家事活動に取り組み、趣味を楽しみ、共に生活するパートナーとして、喜怒哀楽を共にしている。また人生の先輩として、体験談や教訓を聴かせていただいたり、お力をお借りしながら、支えあう関係を築いている。	○	これをケアの基本姿勢とし、新入職員も含め、全スタッフの共通認識となるよう浸透させていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、ご本人を共に支えていくパートナーと考えている。ご家族のご苦労、戸惑いなどをよく理解した上で、ご家族にご相談させていただく場面も多く、いつも多大なご協力をいただいている。		ご家族のお気持ちを大切に思いながら、ご本人のことを話し合う場をこれからも作っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人が望むご家族との関係、ご家族が望むご本人との関係を理解した上で、無理なく、より良い方向を共に模索し、支援している。ご入居によりご本人とご家族の関係が良好になったケースがある。		ご家族へのケアを今後も重視していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会、外出を楽しんでいただいている。		ご本人が会いたい人、行きたい場所について、日頃の会話の中からお聞きし、ご本人のその時々状況に合わせて支援していきたい。ご本人の馴染みの方に気軽にホームに訪ねていただける雰囲気作りに努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が助け合い、いたわり合う場面もあれば、言い争いになる場面もある。お一人お一人の個性と、共同生活を営む仲間同士の関係を見守り、必要な支援を行なっている。		ご利用者同士の関わりにおいて配慮すべき点を見極めた上で、主体的に関わり合う場面は極力見守り、ご利用者の力を出し合える環境作りに努めたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後もご家族からのご相談に応じている。ご家族の方から近況を知らせてくれることもある。		今後も継続して行なっていく。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉に耳を傾け、言動から心の内の願いや思いを汲み取るよう努めている。		スタッフ間で情報を共有することによりより詳細なアセスメントを行なっていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中で、またご家族から生活歴を聞き取り、情報を収集している。ご本人の習慣、生活環境、サービス利用の経過等は入居前に把握するよう努めている。	○	入居前のアセスメントを充実させられるよう、情報収集の時間を今まで以上にとれるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	主に、ご家族への聞き取りから、ご本人の過ごし方、心身状態、有する力等を把握する。入居により一日の過ごし方が変化したり、新たに発揮される力もあるので、現状を常に見極めるよう努めている。		今後も、常に現状を見極めるスキルを全職員で追求したい。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意向を伺い、職員が汲み取ったご本人のニーズを日常的に話し合い、それらを基に介護計画を作成している。		ケースカンファレンスの頻度を上げていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化については話し合いの上、職員間の連絡ノートにて情報共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践は、「個人記録」に記入し、特記事項や詳細、新たな気づきや取り組みについては、「個人記録ノート」に記載している。バイタルサインの観察を週一回記録している。これらを介護計画の見直しに反映させている。		今後もケア実践、気づきや取り組みの情報を共有する仕組みを工夫していきたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医、訪問看護による医療サポートが充実しており、医療連携体制加算の算定が認められている。また、併設のデイサービスとの活発な交流により、ご利用者の生活支援の幅を広げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域包括支援センターでの区内の民生委員との顔合わせに参加したり、小学校の催事にお招きいただいたり、子供が訪ねて来やすい雰囲気大切にしている。	○	特に防災関連の協働について、関係各署と話し合っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内、法人外の同じ地域のケアマネジャーとの連携を密にとっている。あらゆるサービス事業者と連携すべく、地域のケアマネジャー連絡会等を通じて情報収集に努めている。		ご本人のニーズに応じた支援が出来るよう、今後も地域の事業者との連携を深めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターでの研修会に参加したり、運営推進会議を通じて、情報共有している。		地域包括支援センターとケアマネジメントを協働できる体制を整えていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の医療機関受診を基本とするが、ご同意いただける場合、月2回の訪問診療をかかりつけとして受診していただいている。現状、全ご利用者が受診されており、突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により関係医療機関での受診も可能になっている。訪問歯科診療も導入している。		かかりつけ医との連携を更に強化していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談できる特定の専門医はいないが、かかりつけ医、ケアマネジャーからの情報を得て、随時受診支援している。	○	認知症専門医に関する情報収集に努めたい。
	○看護職との協働	医療連携に係る契約を交わしている訪問看護ステーションの		



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が、日常の健康管理の他、体調の変化などがあった場合、いつでも電話連絡にて気軽に相談している。看護師による電話での指示、訪問、かかりつけ医への連絡などのきめ細かい対応により、ご利用者、ご家族への医療面の支援が行なえている。		かかりつけ医、看護職との連携をキープしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医と入院先の医師が情報共有、また、提携している訪問看護ステーションとの連携により、退院がスムーズに行なえたケースがあった。また、医療相談員との情報交換を密に行なっている。		かかりつけ医を中心とした連携を強化できるよう、良好な関係を維持していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際、ご家族と重度化や終末期、緊急時の対応についての話し合いをし、方針を共有している。		折に触れてご本人の意向を聞き取るよう努めたい。ご家族とは繰り返し話し合うように努めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃からかかりつけ医、訪問看護ステーションとの連携し、ご本人のその時々状態について情報共有できるよう努めている。		今後の重度化や終末期の対応に向けての準備として、さらなる連携の強化を図っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐために、移り住む居所へ詳細な介護サマリーを提出している。問い合わせが来た際は、本人のケアについての相談に応じている。		リロケーションダメージを防ぐための情報交換を徹底したい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	ご本人の尊厳を損なわないような言葉かけや対応をするよう		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	配慮している。言葉遣いのあり方について、職員間で話し合う機会を設けている。職員間でご利用者の情報を申し送る際、イニシャルでお呼びして、個人を特定出来ないように配慮している。		特に、言葉かけの配慮は常に意識出来るよう、繰り返しこのことを振り返る機会を設けたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の希望を表せるような雰囲気作り、自己決定が出来るような対応(自主的な行動を見守る、意思を表すのを待つ、など)を心掛けている。		お一人お一人の「わかる力」に合わせた納得できる説明、選択肢の提示などのスキルを上げていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日、その時のご利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図ったり、ご利用者の訴えにじっくり耳を傾けるなど、「利用者主体のケア」を職員のチームワークにより臨機応変に行なっている。		「利用者主体のケア」の推進のため、各職員の研修に力を注いでいく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院に出かけ、美容師と相談しながらその人らしいおしゃれをすることによりフレッシュ出来るよう支援している。鏡の前で身だしなみを整えたり、化粧品やマニキュアなどご本人の好むおしゃれを楽しめるよう努めている。		理・美容院への外出を出来る限り継続したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に同じ物を同じ食卓で味わい、一緒に食事の準備、片づけを行うことは、開所当初から一貫して徹底しており、お一人お一人の力を発揮し、主体的に生活していると実感できるよう支援している。食べ物の好み、盛り付けの好み(例えば、丼物は苦手であるなど)、食べやすい形状などを把握し、実践している。		食事にご利用者の好みを重視した献立の工夫をしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物については、コーヒーが好きな方、冷たい物が好きな方、熱い物は冷ましてからなど、好み・状況に合わせて楽しめるようにしている。また、個人が好きなおやつ、お酒を選んで買えるよう支援したり、好きなときに好きなものをご自身で楽しめるよう見守っている。		お一人お一人の状況を見守りつつ、自由に好きなものを楽しめる支援を継続したい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗の原因が、尿意の問題なのか、トイレの場所がわからないからなのか、動作の制限によるものなのか等を見極め、お一人お一人の排泄パターン、習慣を大切にして、必要な支援を必要な分だけ行い、個人の尊厳を傷つけないように配慮している。		職員間で、排泄におけるお一人お一人の力、習慣についての気付きを共有し、その時々状況により、支援の方法を模索していく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人お一人が好むタイミングや、希望、心身の状況に合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。		今後も入浴の時間帯、長さ、回数などお一人お一人に合わせて支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝や起床の時間はお一人お一人異なり、その方の生活リズム、その日の活動の状況や生活習慣に合わせて睡眠の支援をしている。寝具についても、備え付けのソファベッドに使い慣れた布団を敷くスタイル、床にじゅうたんを敷き、その上に布団を敷くスタイル、介護用ベッドを使用するなど、自由にさせていただいている。また、個人の必要性に応じた休息		心地良い、睡眠、休息のため、お一人お一人の生活習慣、お一人お一人に適した環境作りにも一層の配慮をしていく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般に関して、その日その時にお一人お一人のできる力、わかる力、意欲を最大限に活かした役割活動を支援している。犬が好きの方、花が好きの方、身体を動かすことが好きな方、ショッピングが好きの方など、ホームの内外に拘わらず、個人の生活歴、好みに合わせて楽しみ事を設けたり、買い物、喫茶などの外出は日常的に行っている。		お一人お一人の意欲と力を発揮できる機会を大切にしたい。生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じて、ご家族と相談の上、お財布を所持し、買い物の時に好きな物を買ったり、好きなコーヒーを飲みに行ったりしている。		これからも、介護の上でご本人がお金を持つことの大切さを理解し、お一人お一人の希望、力を見極めて支援の方法を模索していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、衣類の買い物、お菓子、パンやワインの買い物、喫茶、美容院、散歩などの要望が出ることもあり、希望に沿って支援している。		お一人お一人のその日その時の希望を優先して取り入れ、外出によってリフレッシュしたり、充実感が得られるような支援を今後も行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとり行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お一人お一人の希望、趣向に合わせて、葉山の美術館への外出、デパートでのショッピングなど、個別に対応する機会を作っている。誕生日に、ご本人、ご家族、担当職員がレストランでゆっくり食事を楽しみお祝いすることもある。		今後も、ご利用者の「行ってみたいところ」をお聞きしたり、「楽しんでいただけそうな場所」を検討して、出かけられる機会を作っていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自らご家族、ご親戚、ご友人に電話をかけたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		今後も、通信の自由を支援していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援	ご家族、ご友人、隣近所だった方など、ご利用者にとって馴		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	染みのある方々が訪問する機会が多い。居室を使ってゆっくり過ごしたり、ホールで他のご利用者とお茶を飲んだり、アクティビティの様子をみていただくこともある。気軽に訪問できる雰囲気大切にしている。面会時間の制限はしていない。		ホーム側の支援や行事を優先させるのではなく、馴染みの方との交流が優先されるよう配慮していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないということを職員が正しく認識しており、また、広義での「行動の制限を行わない」ということを意識したケアを実践している。	○	今後も身体拘束を行わずに最善の代替手段を検討していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	お一人お一人の自由な生活を支えるため、全ての職員が「鍵をかけないケア」の大切さを認識し、取り組んでいる。		今後も鍵をかけないケアを継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人のプライバシーが守られるよう、また、自由な行動を妨げることのないよう、さりげなく様子を把握し、見守っている。		マニュアル化はしないが、視野を広げてご利用者を見守る必要性もあることを学び、さりげなく実践できるスキルを養っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感のある環境を大切に、危険を伴うものでも一律になくすことはしない。注意の必要な物品を扱う場合は、その場の状況を見極め、その方の力に応じ、必要な配慮を必要な時に行っている。		「普通の生活で使っている物品とは何か」という視点を忘れず、リスクを見極めて必要な支援に結び付ける方法についての話し合いの場を設けていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な避難訓練、誤薬、転倒防止、誤嚥した際の対策など事故防止のための勉強会を行っている。		お一人お一人の状態をよく見極め、事故防止の取り組みを強化していく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	上級救命講習に参加し、学んだ知識の周知に努めている。	○	順次、全職員が救命講習に参加する。緊急時対応のマニュアルを見直し、全職員で確認し、定期的な訓練を行う。
	○災害対策			ご利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよ

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、同一敷地内に居宅のある大家さんの協力を得られるよう働きかけている。	○	う、確認を徹底していく。大家さんとの関係を良好に保ち、働きかけを継続するとともに、運営推進会議等、地域の方との話し合いの場を活用し、協力を得られるよう広く働きかけていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者の状態を把握し、ご家族等に情報提供している。その方らしい生活を営む上で起こり得るリスクについて説明し、話し合っている。ご家族にケアカンファレンスに参加していただいたケースもある。		その方が望む暮らしと、リスク、対応策について、ご家族等と共に考えていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインをよく観察し、気付きを連絡ノートにて情報共有している。異変発見時は、かかりつけ医や訪問看護ステーションに速やかに相談し、受診、処置などの指示を仰いだり、必要な場合は訪問を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の薬の情報は、「医療ファイル」に保管、職員が随時閲覧できるようにしている。お一人お一人が使用している薬について全職員で確認する場を設けた。服薬の内容の変化についてもその都度周知している。		個々の職員が薬についての意識を高め、維持できるよう、日ごろから職員間で確認をするよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルトやオリゴ糖、繊維質を多く含む食物などを取り入れている。日常生活の中で身体を動かす働きかけをしている。		お一人お一人の排便の状況を把握し、予防と対応を継続的にしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お一人お一人の口腔状態や力に応じた支援を行い、定期的に訪問歯科による口腔ケアも実施している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を残し、把握した傾向に応じた工夫をしている。お一人お一人の食べ方、好み、習慣を大切にしている。水分摂取量の少ない方には、好きなものをその方の摂りやすい方法で少しずつでも飲んでいただけるよう配慮している。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時には感染症に関する診断書を提出していただいている。年一回のインフルエンザの予防接種を実施している。ノロウイルス対策として取決めした清掃方法を徹底した。	○	感染症に関する勉強は継続し、取決めの内容をマニュアル化したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は毎日消毒を実施し、生活の場としての衛生管理に注意を払っている。食材は新鮮で安全なものを使用し、冷蔵庫内の衛生管理にも配慮している。		今後も生活の場としての適切な衛生管理に努めたい。

## 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### (1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内の庭、ウッドデッキや玄関周りには、枇杷の木の他様々な樹木や季節折々の花で親しみやすく美しい環境を整えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所には季節の花を飾り、居心地よく過ごせるよう配慮している。音の大きさに配慮したり、強い光が差し込む窓にロールカーテンを付けるなど、不快感がないように工夫している。		ご利用者だけでなく、面会にいらした家族等や外部のお客様も居心地よく過ごせる空間づくりに努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢が集うリビング以外のこじんまりとしたスペース(廊下、洗面所など)にも椅子を配置し、ご利用者が集団から離れて一人静かな時間を過ごしたり、ご利用者同士でくつろいだり、職員とご利用者がゆったりと関わる際、活用している。		スペースの有効活用し、ご利用者が思い思いに過ごせる雰囲気大切にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		生活に必要なものだけでなく、好みのものをさらに取り入れる工夫をし、その方らしい居室作りを考えていきたい。
	○換気・空調の配慮		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>至温については、各居室、共有スペースともに、ご利用者と相談したり、状態を観察しながら適宜調節している。起床時の換気は徹底しており、それ以外の時間帯の換気もこまめに行っている。</p>	<p>外気温と大きな差がないような配慮を今後も行っていく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に出来る限り自立した生活を送れるよう、お風呂場(脱衣室)の手すりを新たに数箇所設置したり、必要に応じ、歩行器やシャワーチェア、浴槽に取り付ける手すりなどの介護用品も活用している。</p>	<p>お一人お一人の身体機能に合わせた環境整備を検討していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>お一人お一人のわかる力を活かし、どのような場面で混乱するのかを見極めた上での必要な工夫をしている。トイレに目印、居室の入り口には表札をつけたり、見やすい位置にカレンダーや時計を配置している。家庭的な雰囲気を壊さないよう配慮している。</p>	<p>今後もご利用者のわかる力を活かした工夫、自立に向けての工夫をしていきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダではご利用者が洗濯物を干したり、近隣の風景、富士山の眺望を楽しんでいる。1階のウッドデッキは大人数で利用できるの、日光を浴びながら身体を動かしたり、お茶を飲むなど有効活用しており、デイサービスの利用者とは交流できる絶好の場でもある。庭で花摘みをしたり、野菜や枇杷の収穫も楽しんでいる。</p>	<p>建物の外周りの環境を今後も有効活用していきたい。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
		<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように



96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ご利用者お一人お一人が思いや希望を表し、個性を大いに発揮しているホームです。時には一致団結、時にはけんかもあり、時には物思いにふけ、時には大笑い、時には達成感に満ちた晴れやかな表情。ご利用者が表情豊かに暮らし いらっしゃるのが風の生活館の日常です。
- ・職員は、ご利用者の豊かな生活のために何が出来るか、日々検討を重ね、実践しています。「ご利用者主体」をテーマに掲げ、「ご利用者の思いに寄り添い、ご利用者との関わりの中から学ぶ」という独自の研修に力を注ぎ、職員もご利用者と共に、主体的に生き生きと活動しています。
- ・日常的な買い物や外食、理・美容、地域の催事の他、季節感を味わえる外出を活動に多く取り入れることにより、リフレッシュを図ったり、社会とのつながりを大切にしています。新鮮な空気を吸い、視野をぐんと広げたときの爽やかな表情、買い物途中の「ご近所さん」とのちょっとした出会いや、小さなお子様と接する時の生き生きとした笑顔は、どんな療法の効果にも勝ります！
- ・元気の良い愛犬ちどりは、ご利用者を元気いっぱいにしてくれます。「こらー！吠えないの！」とやんちゃな子供を叱るお母さんのように、「よしよし、いい子だね」と優しく子供に語りかけるお母さんのように、ちどりを可愛がっています。
- ・庭のミニ菜園や、玄関周り・ウッドデッキを彩る季節の花々、ベランダからの富士山の眺望を楽しめる美しい環境です。
- ・必要な時に必要な医療を受けられるよう、24時間365日体制で訪問診療、訪問看護ステーションと連携し、ご利用者、ご家族の安心につなげていきます。
- ・デイサービスと併設しており、そのメリットを活かして、日常的にご利用者の活動や交流の幅を広げる機会があります。また、法人内のグループホーム（8事業所13ユニット）が互いに交流し、情報交換を密にすることで、質の向上を図り、活動のバリエーションを広げています。
- ・地域包括支援センターとの連携により、地域に関する情報提供や、地域の他のサービス事業所との良好な関係作りのためのご支援をいただき、地域に開かれ、地域に根ざしたホームとして前進しています。